

まちの魅力 再発掘プロジェクト

このプロジェクトは、JR下関駅から火の山までの海峡沿いを対象に、このエリアの魅力を改めて発掘しようとするものです。本プロジェクトのリーダーを務める芳田副市長に話を聞きました。「あるかぼーとの開発を進めるうえで、海峡沿いのエリアは非常に重要です。このエリアのにぎわいは欠かせないと思います。関門海峡を臨むロケーションは本当に素晴らしいし、胸を張ってアピールできる場所。それをさらにブラッシュアップして、市民生活との融合も図りたいと考えています。観光客だけが来る場所ではなく、地元根付いた、そこに暮らす市民の皆さんに愛される場所であってほしいと思います」

「下関らしさ」のある 観光ガイドブック

魅力の再発掘に向けて取り組んだのが観光ガイドブックの作成です。作成に当たり、全国各地の観光ガイドブック「d design travel」を発行するD&D DEPARTMENT社を迎えました。「d design travel」は、その土地に長く続く「個性」「らしさ」に焦点を当てた、オリジナリティの高い観光ガイドブックで、全国的に高い評価を得ています。



副市長 芳田直樹

副市長就任4年目。
まちの魅力再発掘
プロジェクトの
リーダーを務める

今回は、その別冊として「d design travel WORKSHOP in 下関海峡エリア号を作成することとした。観光ガイドブックにはおしやれなスポットや都会的なスポットなどを掲載するイメージがあるかもしれませんが、今回のテーマはあくまで『下関らしさ』です。ほかのまちにはない、このまちにずっと根付いているオリジナルなものを取り上げたかったんです。下関に來ないと体験できない唯一無二な物や場所など。そういう魅力を改めて発掘することが大切だと考えました」

ガイドブックの編集に先駆け、同社代表のナガオカケンメイ氏を招き、プロジェクトのキックオフイベントを開催しました。公募の

“下関らしさ”

市民ライターが編集した「下関らしさ」のある観光ガイドブックを発行しました



ナガオカケンメイ氏も参加した「まちの魅力再発掘プロジェクト」のキックオフイベント。(2019年6月)このイベントで議論された下関の魅力を基に、ガイドブックの編成を開始した。

参加者を含む約160人が参加。ワークショップでは「下関らしさ」のあるスポット等について議論が繰り広げられました。話題が上がったスポットなどがガイドブックの軸となります。

「ガイドブック作成の過程が重要だった」

ガイドブックでは、「観光」「食事」「買い物」「カフェ」「宿泊」「人物」のテーマごとに、それぞれ4つのスポットを紹介しています。応募のあった24人の市民ライターの方々と編集部が協議を重ね、下関らしい個性や独自性の高い魅力あるスポットを選定しました。「魅力の再発掘からそれを記事にするまでを市民の方が行う、その過程に意味があると思っています。自分たちのまじの自分を自分たちで考える。そうすることで愛着も湧きますし、見え方が変わります。そして、自分たちが発掘した『わがまち下関』の魅力を、市外の友人などに自分の言葉で熱く語ってほしい。そんな思いがありました。当初からガイドブック作成の目的の1つは、ライターとして協力してくれる熱い思いを持った市民の方と出会うことでした。そういった方と行政が関わることで次につながっていくのではないかと考

えています。完成した冊子は、市内各所に設置しています。またホームページからも閲覧可能です。

次はエリアビジョン策定

「次のステップでは、市民や事業者の方と一緒にエリアビジョンを考えていきます。ガイドブックを作った終わりではありません。再発掘した魅力はもちろん、ガイドブックを作成するまでに出会った方や感じたことを基に、そして新たに市民の皆さんから声をいただきながら、エリアビジョンを策定していきます。そのためのミーティング(サキミル会議)を予定しています。みんなで下関の将来について語り合います。皆さんの参加をお待ちしています」(サキミル会議の詳細は5ページ)



▲キックオフイベント



d design travel
WORKSHOP in
下関海峡エリア号

改めて、初めて、 みんなで考えてみた

閩企画課 ☎231-5838



6つのテーマごとに4つのスポットなどを選定。
市民ライター24人が、テーマごとに4人ずつの
6グループに分かれ、24のスポットなどを紹介



食事

下関くら館

知ることの魅力が増す

地元だからこそ、名前だけは知っているけど、「また今度にしよう」と先延ばしになっているお店ってあると思うんです。今回、私が紹介しているのはそんなお店の一つでした。取材する中で、ここに至るまでの物語や背景を聞き、印象が変わりました。知れば知るほど、お店の奥行きを感じましたし、同じものを見ても「知ることの魅力が増す」ということを実感しました。



内田 達也 さん
システムエンジニア

観光



しもせき海峡まつり

私たちのまちをデザインの視点で見よう

「d design travel」の編集方針は独特で、最初は難しく感じましたが、改めてその視点で下関市内を見ると、感じ方が変わりました。今回、選出されたスポットは「下関にしかない」、逆に「下関にないと違和感がある」といった本当に下関ならではのものだと思います。編集部と市民で真剣に選び、作り上げました。これを見て、巡って、下関らしさを体感してもらいたいです。



菅 真智子 さん
税理士事務所勤務



カフェ

tearoom Liz

帰郷して気付いた下関の良さ

私は生まれも育ちも下関なのですが、一時期、海外で暮らしていたことがあります。帰郷して感じたのが、このまちには外の人に紹介したくなる素晴らしいスポットがたくさんある、ということでした。それまで当たり前だった場所も、改めてみることでその魅力に気付くこともあるかと思います。私は「カフェ」を担当しましたが、どのカフェも本当に魅力的です。



福永 百合江 さん
ビューティーパートナー

買い物



Maazel Maazel 大丸下関店

行けば「下関のこと」が分かるお店

私は韓国からの留学生として、2年前から東亜大学に在籍しています。冊子では4店が紹介されていますが、どこのお店が紹介されているかを見るだけでなく、私たちが書いた紹介文もぜひ読んでほしいですね。その魅力が少しでも伝わればと思っています。お店を回れば、下関がどんなまちなのか分かると思うので、韓国から家族や友人が来た際は、連れていきたいですね。



ペック・ジョンウォン さん
東亜大学 韓国留学生

